

令和5年度第2回蟹江町総合教育会議 議事録

開催日時	令和6年2月22日（木）午前9時30分～10時30分
場 所	中央公民館 第3会議室
出席者等	町長 部 局：横江町長、政策推進室長、政策推進課長、同課主事 教育委員会：服部教育長、森田教育長職務代理者、佐藤教育委員、太田教育委員、高阪教育委員、教育部次長兼教育課長、同課主幹、同課係長
報 告 者	政策推進室政策推進課
傍 聴 者	なし

○開会

1 あいさつ

（町長）

改めましてみなさんおはようございます。教育委員の皆様には蟹江町の学校教育並びに行政に対して本当にお力添えをいただいております。心より感謝申し上げます。

確定申告もいよいよ始まりました。そんな中、ある程度予算編成が終わり、記者発表が近々行われる予定であります。過去最高の一般会計予算を組ませていただきました。我々としては予算を無駄に膨らませたのではなく、それだけニーズがあるということをご皆さんにお知らせしたいと思っております。しかし、それだけの歳入があるかという厳しい状況で、地方税としては固定資産税、住民税、あとは譲与税や補助金もありますが、それらは自主財源ではなく依存財源です。いろいろな交渉をさせていただいております。特に力を入れたいのは、教育助成でありますし、今回の施政方針の中にも、教育長のお願いであるプログラミング教育をステップアップして、ロボットを使って実際動かしてみようということを予算に入れてあります。予算査定では非常に厳しいことを多分言われていたと思っております。他の市町村でやっているのかわかりませんが、私は必要なことだと思いますので、導入させていただきました。教育に関してはスクールサポーターやALTも含めて、他の市町には負けない教育行政にしていきたいと思っておりますので、教育委員の皆様方、どうぞよろしくご協力いただければと思います。

短い時間ですがどうぞよろしくご願い申し上げ、冒頭のご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

（教育長）

改めましておはようございます。今年度、中学校の新制服を令和7年度の導入に向けて取り組んでまいりまして、製造に入る手前まで順調に進んできています。また、舟入小学校のプールの事業においては、今年度、民間施設を利用しましたが、来年度は5つの小学校でも民間施設を利用していけそうです。町財政には負担を掛けますが、町長のご理解のおかげ実現することができました。令和6年度に向けては先ほど町長からお話がありましたようにコンピューター教室を改修するにあたって、プログラミング教育を今後進めるためにも、本当にご無理言わせていただきました。この先、町教育委員会としてすることは年間計画の教育課程で小学5、6年生あるいは中学校の3年間でどのように、プログラミング教室を進めていくかということの組み立ての準備に入り、学校とも相談して十分効果が上がるものになりたいと思っております。

ちょっとした変化のところでは、小学1年生の給食を今まで2年生から5年生の給食よりスタートを学校生活に慣れるまでということに遅らせていました。ですが、シングルの方もいらっしゃいますし、ご夫婦で働いている方もいます。給食を食べずに帰ってくる、子どもに給食を食べさせたいという意見がありまして、学校現場にしても1年生だけ特別に早く帰すとなると担任の先生も負担があります。舟入小学校に関しては担任が1人しかいないので、職員が総出で対応し、職員室が空っぽになってしまうような状況があります。あるいは、年間の在校時間、先生方の勤務時間のオーバーも起きる。4月は40時間をオーバーする先生方が非常に多いです。やはり年度初めで事務仕事が多く、勤務時間が終わっても仕事をされる。それらの理由から給食を1年生もすぐにスタートさせる。それによって、下校の負担も少なくなるため、1年生も5時間目まで授業をやって、小学校全校児童が一斉下校で帰るようにします。先生方は5時間で終了します。中学校も同じにしようと思っています。中学校の部活動も午後4時までには終了し、勤務時間終了までは事務仕事ができるようにさせていただきます。今までは部活を勤務時間以降までやって下校となっていたので、その分、事務仕事の時間を確保して残業時間を減らせるように、親の負担も減らせるような形でスタートしていきたいと思っています。もちろん6時間目をカットすることで一番心配されるのは年間の総時間数ですが、文部科学省が教育課程で決められている総時間数を下回ることは決してありませんので、心配はないかなと思っています。生涯学習課関係は中学校の部活動地域移行に向けてということが、令和6年度の一番大きなことになっていくかなと思っています。生涯学習課を中心にとりあえず休日の部活動の地域移行に向けてどうしていくかという大枠を決めながら、細かいことについては各競技団体と相談していきます。そこまで何とか進められて令和7年度、8年度に何らかの動きができればいいかなと思っています。本日も限られた時間ですが、次年度の蟹江町の教育に向けてのいろいろご意見をいただきたいと思っています。よろしく願いいたします。

2 報告事項

(1) 広島平和記念式典中学生派遣事業について (事務局)

広島平和記念式典中学生派遣事業について7月に開催しました。第1回の総合教育会議で事業計画を報告させていただいておりますが、本日は、その結果報告となります。ただ、教育委員の皆さまには既に生徒たちの報告書を10月頃に送らせていただいておりますので、改めてのご報告となります。8月5日(土)、6日(日)の1泊2日で、蟹江中学校、蟹江北中学校の生徒会を中心に各5名、合計10名を蟹江町の代表生徒として派遣し、広島平和記念式典中学生派遣事業を実施しました。今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行しましたので、コロナ禍前と同じように事業を進めることができました。中学生たちは式典参列の他にも千羽鶴の奉納や、広島平和記念資料館の見学、同世代の生徒たちと平和について学ぶワークショップのような研修会への参加などを行っております。また派遣前は、事業に伴う交流会を開催し、30分程度被爆者の方から講話をしてもらい、平和を学ぶという機運を高めるとともに、派遣後は、文化祭や全校集会で広島平和記念式典中学生派遣事業の報告を行いました。来年度も、引き続き、戦争の悲惨さや命の大切さ、平和の尊さを学んでもらう広島平和記念式典中学生派遣事業を令和6年8月5日(月)、6日(火)に実施して参ります。その他、この報告書については、参加生徒を始め各中学校において全クラスに配布しております。また、平和祈念パネル展や町図書館においても供覧し、平和推進資料として活用して参ります。

(2)まちづくりミーティングについて

今年もまちづくりミーティングを開催させていただきました。将来を担う子どもたちに、町長と意見交換を通じて町政への関心を深めてもらうとともに、子どもたちの夢のある幅広い意見や要望などを今後のまちづくりに生かしていくことを目的に、蟹江中学校と蟹江北中学校で開催しています。今年も、中学2年生を対象に10月23日(月)に蟹江北中学校で、11月27日(月)に蟹江中学校で、蟹江町の将来について意見交換をしました。今回生徒たちからの意見は蟹江中学校では事前にアンケートを自主的にやられております。「10年後の蟹江町を考える」をテーマにアンケートをさせて、そのアンケートの中で上位だったものを質問されています。蟹江北中学校は、各クラスで質問を考えられたようで代表者が質問をしました。今年の質問は、温泉についてや近鉄蟹江駅南側改札口について、体育館の空調や道路の整備について、その他、川を綺麗にして欲しいや交通安全の取組について知りたいなどがありました。少し変わった質問ですと、市町村合併やリーダーに必要なことは何かなどを、町長に直接質問されております。生徒と町長が一問一答形式で議会のようにやられまして、1問5分程度で、各校5～6問の質問をしました。町長部局の報告事項は以上となります。

3 議題

(1)教育委員会の主な予算について

(教育部次長)

令和6年度の主な予算及び取組状況についてご説明をさせていただきます。教育委員会は4課ございますので順番にご説明をさせていただきます。

まず教育課関係でございます。先ほど町長が冒頭で申し上げましたけれど、現在、パソコン教室があり、そちらをICT総合教室に改めまして、プログラミング教育の充実に取り組んでまいります。具体的には現行のパソコン備品の借上げ期間が令和6年8月末で満了となります。それに伴いまして、小学校についてはロボット教材を使用いたします。中学校はレゴブロックを取り入れました三次元による学習が行えるように整備させていただきます。また教職員につきましても教育活動がより効果的に行えるように、校内オンライン環境等の充実を図ってまいります。2つ目です。民間事業者の施設を利用した水泳指導を全ての小学校に導入することを予定してございます。今年度、試験的に導入しました水泳指導の委託事業について、一定の効果が確認できましたので、全ての小学校で実施をいたします。主な効果としまして、児童の泳力及び体力の向上や、安全で天候や気温に影響されて授業を変更する必要がなくなったことに加え、教員のプール管理業務削減等が挙げられました。次に専任職員としてスクールソーシャルワーカーを配置させていただきます。これまでは適応指導教室(あいりす)の職員が兼務で行ってまいりましたが、令和6年度からは専任の職員を1名配置させていただきます。専任配置となることで、午後からの半日勤務であった学校でのスクールソーシャルワーカー事業が、午前中から各小学校、中学校を巡回することが可能になります。それにより各学校で問題を抱える児童、生徒、及びその家庭につきまして、関係機関と時間を掛けて情報共有をしながら、より丁寧な支援が見込まれます。最後に学校施設の整備でございます。毎年大きなお金を投じる事業ですが、令和6年度につきましては、蟹江小学校と蟹江北中学校のトイレ洋式化工事を実施いたします。この2校のトイレ洋式化工事を行うことで全体の洋式化率が7割程度に上がっていくこととなります。そして、学戸小学校管理棟屋上防水改修工事の設計委託をさせていただきます。翌年度の工事へ向けて設計していきます。最後に中学校体育館空調機設置工事の設計を委託させていただく予定となっております。

続きまして給食センター関係でございます。物価高騰により影響を受けております給食の1食単価の見直しをさせていただきます。食材が高騰していますので、現在の給食単価に40円を上乗せさせていただきます、1食単価を小学校300円、中学校340円と改めて提供をさせていただきます。保護者負担につきましては、据え置きのみ進めたいところでございます。その高騰分につきましては、公費負担になると思います。

続きまして生涯学習課関係でございます。青少年健全育成推進事業といたしまして、継続しております、中学生沖縄県読谷村・大宜味村交流事業を実施いたします。来年度から従来の読谷村に加えまして、大宜味村を加えた交流事業をスタートさせていただく予定でございます。それから中学校の部活動地域移行検討委員会を設置いたします。令和7年度を目途に中学校の休日の部活動を段階的に地域移行するため、検討委員会を設置し、委員の皆様方のご意見を頂戴しながら可能なところから進められればと思っております。

最後に図書館関係でございます。図書館につきましては、第二次蟹江町子ども読書活動推進計画の策定です。計画の期間を5年としております。現在の一次計画の満了がきますので、第二次の計画を策定することになります。これに伴い、子どもたちが自主的に読書活動に取り組める環境を整え、学校、地域、図書館の連携を深めながら読書活動の推進を継続していきたいと思っております。今年度につきましては図書館空調工事で住民の皆様にご迷惑をお掛けいたしました。臨時休館中には書庫の整理などを行うことはもちろんですが、今導入させていただいております学校図書館システムのより効果的な活用に向けて、図書館の職員が学校を巡回し、学校と図書館の職員との情報共有を図りました。臨時休館が開けます新年度からは住民の皆様が気持ちよくご利用していただけるように努めてまいりたいと思っております。

(町長)

多岐に渡る報告ではありますが、この件につきましてご意見ご質問ありますでしょうか。わかりにくいところがあったかもしれませんがご遠慮なくお願いいたします。

(森田教育長職務代理者)

教育部局から令和6年度の予算、取組状況を報告していただきました。町長が最初におっしゃられたことに結びつきますが、すべてに対してお金のいることだなと思っております。ですが、町長が教育に力を入れていきたいというありがたいお言葉もいただきました。我々が学校へ行くと子どもたちの安全を守るために、直していただかないといけない老朽化している箇所が新しく出てきます。プログラミングのことや、民間事業者への水泳指導の移行など、いろいろなことにお金がかかってくるのですが、蟹江町もかなり都市化してきて、いろいろなタイプのご家庭があります。毎月の教育委員会で上がってくる援助もまだまだ増えていく方向にあるのではないかなと思っております。給食費のことも含めですが、目に見えない日々の予算を出さないといけないことがたくさんあると切実に思いました。この機会ですのでよろしく申し上げます。

(町長)

給食費についてはわかりにくい説明だったのですが、皆さんもご存じのとおり愛西市が来年度から中学生の給食を無料にするという発言があり、びっくりしました。私だけではなく周辺の首長さんもびっくりしたと思います。億単位の負担ですからね。蟹江町も全部の小学校、中学校をやれば2億円以上の負担になると思います。実際、値上げの部分ではありますが、次年度については町で値上げ分は補填させていただき、まずは保護者の給食費負担を抑えさせていただく。本来はもう少し国が出していただくべ

きだと思っておりますが、それをやると多くの財源を使うこととなりますのでしばらくは難しいのかなと思っております。ただ、他の自治体の給食費の無償化の動きに拍車がかかってくると思っておりますので、来年度スタートした後に、保護者の皆様からの要望が出てくるのではないかなと思っております。まずは、公費で補助させていただき、しっかりと子どもたちの栄養管理をしながら、次に向かっていきたいと思っておりますので、ぜひともご理解をいただければありがたいです。学校の空調の問題ですが、文部科学省には当然出向いていますが、実際、どこに申請に行くのか、私も定かではない状況であります。トイレの改修が一段落しますが、これも億単位の財政支出になりますので、しっかりやっていきたいです。先ほど森田教育長職務代理から言われたように、老朽化した建物、まだまだ改修しないといけない建物がありますので、優先順位の高いところから一般財源を投入していきたいと思っております。冒頭の私の挨拶の中に整合性のあるところを、見据えていただけるとありがたいのかなと思っております。

(2) 町立小中学校における現状について

(教育課主幹)

令和5年度学校教育等に関する行事・事業一覧について、9月以降のものを掲載させていただいております。1 学校行事・町行事は9月からの中学校の体育祭・文化祭、小学校の運動会は新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたことにより、ほぼ半日日程ではございますが、種目や内容を以前の水準までほぼ戻し、それぞれの教育目標を達成できるように各学校が工夫を凝らして取り組まれました。その他の行事では各校での授業参観や小学校での学習発表会、中学校での職場体験学習などしっかり実施できるようになってきたとの報告を受けております。来月に行われる卒業式についても児童生徒の最後の晴れ舞台となるように行われるものとなります。2 学校訪問は、紙面のとおり行われました。各学校の実態に応じてタブレットを効果的に使用した学習や対話的活動などの指導方法を工夫した授業の取組を見ることができたのではないかと考えております。3 教育委員会議、4 諸会議、5 町校長（・教頭）会議については紙面のとおりです。

続いて、生徒指導上の諸問題に関する調査結果についてです。まず暴力行為になります。今年度は昨年度と比べると生徒間暴力が減少していることがわかります。からかいや言い争い、接し方の勘違いから発展してしまう報告が多いです。例を挙げます。小学校6年生男子が交友関係から口論となり、両者たたき合いから発展するという報告を受けております。続きまして中学校1年生男子が仲の良い友達の接し方が普段に比べると冷たいと怒りを感じ、頬と後頭部を殴る報告を受けています。現場に対しましては、少しのことでも積極的に報告をしていただき、子どもたちに寄り添った指導を行っていくようお願いをしております。暴力行為に関しましては大きな事案はみられないと話をしましたが、怪我の状況を見て医療機関への対応が必要な時は保護者に連絡を取るなどして、学校現場で適切な生徒指導が行われるよう考えております。また器物破損については、落書きやトイレトーパーへのいたづらという報告を受けております。続いていじめの発生件数です。暴力行為とは逆に小学校でのいじめが増えてきております。特に小学校でのいじめは4月、もしくは9月、10月といった学期始まりに多く発生している傾向があります。内容としましては悪口や陰口、暴言を言われたり、本人にそのつもりはなくても相手を傷つけてしまったりすることが多かったです。また今年度は、通信ゲームやスマホ関係なども増加している報告を受けています。逆に中学校は件数としては非常に少なかったです。身体的な特徴についてのからかいや、SNSトラブル、金銭の要求、それぞれ1件ずつ報告を受けております。学校外の事案のケースもあるため、本人だけでなく家庭に協力を得る必要がある場合が増えてきています。いずれ

も周囲の児童生徒や保護者等から丁寧に聞き取りを行うことによって、関係者の指導を行うことができております。事案の大小関わらず、いじめを積極的に認知、報告していただき、丁寧な対応を心掛け、経過をしっかりと見守っていくようお願いしています。いじめも例を挙げさせていただきます。小学校6年女子児童がLINEでの言葉の受け取り方の違いから勘違いがおきまして、学校生活に影響を及ぼすようになりました。担任が間に入り話し合いを持ち、言葉の選び方や使い方、顔を直接合わせた話でしか伝わらない場面があるなど指導を行いました。例の2つ目です。中学校1年生女子、同じクラスの複数の生徒から身体的特徴についてからかわれました。精神的ショックを受けているということを保護者からの相談により発覚しました。からかいを行った生徒への指導を行い、生徒らは女子生徒への謝罪を行ったという経緯があります。続きまして不登校についてです。不登校児童生徒数は、全国的に増加傾向にあります。昨年度の全国の調査では、小学生では1.7%、中学生では6%が不登校になっている統計が出ています。蟹江町でも例外ではなく、全国調査の近い数値をたたき出しておりますし、今年度の小中学校ともに不登校の発生件数が昨年度の数値をさらに現時点で更新をしており、過去最高になっていますが、蟹江町においては非行傾向における不登校は少ないです。これは日頃の先生方の児童生徒との関わりにおいて丁寧な対応ができていた表れであると考えています。逆に多くなっているのが、精神的な問題、これに起因する不登校になります。理由は無気力、対人に関する恐怖感を抱いていたり、また家庭が登校に対して協力的でなかったり形態は様々になります。いずれにしても本人への指導だけでなく保護者や関係諸機関と協力して改善を進めていく必要があります。また蟹江町にございます、適応指導教室（あいりす）への入室も増加しております。1月末時点で入室者が11名、現体験入室者が8名、昨年度の数字を上回っております。さらに今の時点で体験者が8名というのは3学期に入ってから体験者数がとても多いのが今年度の特徴かと思えます。適応指導教室（あいりす）ではさまざまな事情の児童生徒に対して丁寧に対応していただいています。今後も増加が見込まれます。不登校児童生徒に対しては児童生徒に寄り添った丁寧な指導となりますように先生方をお願いをしていきたいと思っております。

(3) その他

特にありません

(4) 意見交換

(高阪教育委員)

民間事業者に水泳の事業を委託した場合、学校のプール施設はどうなりますか。

(教育部次長)

そのままです。舟入小学校のプールのどこかで水漏れがすることが原因で、今年度、試験的に始まった事業でした。その舟入小学校のプールは水を溜めたまま置いてあるのが現状です。地域の方からも有事の際に水を張ったままにして、置いておいてほしいという要望がありましたので、そのような形で置いてあります。他の学校についても特にメンテナンスしていくことはないのですが、水を溜めてしばらくは置いておく予定です。

(高阪教育委員)

プールとしては使わないということですね。

(教育部次長)

プールとして使用せず、保守点検等もしない予定です。

(高阪委員)

プールの事業は全て民間委託するということですね。

(教育部次長)

プールの授業は夏だけに限らず、恐らくゴールデンウィーク明けぐらいから、今、考えているのは12月ぐらいまでのところで、民間委託で実施したいと思っています。

(高阪委員)

中学校もそうですか。

(教育部次長)

中学校は現状のままで、学校のプールを活用します。

(町長)

小学校のプールに関しては、議会でも言われていまして、まずはやれるところから実証実験をやって、これが上手くいけば、民間の事業者に委託してやるのはどうかと数年前から言われていたことなのです。学校での水泳指導が終わってから、プールはどうするかというと、防火水槽の役目もあります。また、有事の際は飲料水にするという発言もあった時代もありました。今、ご存じのとおり蟹江町は単独の水道局を持っていて、5つのPCタンクを持っています。震度5以上になりますと自動弁が働きまして、タンク内の水が温存されます。また4つの井戸を持っていますので、そこからの水で浄化すれば水が十分飲めます。そういう意味でいくとプールの水を使うことはまずない、使うとすれば火災が起きた時の支援水になります。しばらくはそういう状態で残していきたいというのが考え方です。そこで人が溺れたらどうするのだとか言われると困りますが、網をしないとイケないとか、そのような話が出てくるかもしれません。考えられることはすべてやって、しばらくはそのままの状態にしておきます。

(佐藤教育委員)

給食費のことで、例年、物価高騰と言われ負担額をその都度、保護者に負担を掛けずに、蟹江町が負担するとされてきていますが、今後、国がどのような行動をしていくかわかりませんが、このまま、物価高騰が続くようであれば、どこかのタイミングで保護者の負担も考えてもいいのかなと思っています。

(町長)

おおよけには30円の負担をしていることになっていますが、それプラス40円の負担も実はやっています。原材料や仕入れ価格がどの程度かわかりませんが、一時のことを思えば物価も落ち着いてきています。決して楽観的に考えているわけではありませんが、とりあえず今回は負担をして、もし本当に足りないとなったら決断をしないとイケないときが来るのかもしれない。ただ、愛西市の中学校の給食費無償化ですが、愛西市は中学校が4校もありますので、2億ぐらいの支出となると思います。よくやったなと感じます。唐突の感が否めない。小学校も無償化にしてくださいと言うと思いますよ。飛島村は財源があるので別ですが、あとの海部地区市町村は歩調を揃えてやろうかという話はしようかと思っています。豊田市長に太田さんが新たになられて、給食費は無償化にしないと書いていたのですが、実際は無償化されましたので、近隣の市町村は大慌てです。財政豊かな豊田市だからできるのです。その悔しさが私の中にはあるので、私は何を言われようとやるべきものは、しっかりと正常な状況に戻して、いただくものはしっかりといただいて皆さんに還元するというメリハリをもった行政をやっていくとイケないと思います。10年後蟹江町がどうなっているのだという蟹江中学校、蟹江北中学校からの意見が

ありましたが、今が良ければそれでいいのかという感覚のメッセージを受けました。今の状況が10年後続くということは絶対あり得ません。それを見据えて、給食費も増額が必要になるという時代が来るといことが今後あると思います。来年度については教育部次長のお計らいで公費負担させていただくということでよろしくお願ひしたいと思ひます。

(森田教育長職務代理者)

図書館が空調の工事で休館してひて、図書館がないと困るとい声がか聞こえてきてひます。さらに、リニューアルされてパワーアップした図書館になると思ひますので、住民の方々は図書館があることの必要性を感じてひますので、よろしくお願ひします。

(町長)

現在、教育委員会では考へてひるのは、エアコンの話です。ご存じのとおり能登半島地震であのような状態になって水道が今でも通ってひない地域があります。都市部では本来あり得ない。あれは完全に行政の間違ひです。それを我々は教訓にして水道事業の老朽化対策も下水道と一緒にやらなければいけひない。そちらにも相当お金を掛けてひかないといけひない。あのような有事になったとき、蟹江町は液化化しますので水道管の老朽化については、下水道を通すに伴って、柔軟性のある管に全部替えてひてひます。ですが、水道組合のあつた時代からの古い管が残てひます。それを下水道と一緒にやてひますので、相当のお金がかからかかると思ひます。エアコンについては他の方からも議員さんからも言われておひますので、まずは教育長と教育部次長と相談をしながら経済産業省を使うのが一番いいのかなと思てひます。1校つけるのか、それとも2校ともやてひしまうのか検討中です。清須市や岩倉市の空調設備の状況を参考にしながら進めて行きたいと思てひます。また、空調設備の件は施政方針に入れましたので、多分質問があると思ひますし、やる方向で進んでひます。蟹江北中学校、蟹江中学校の2校同時に設置するほうが不公平感はないのかなと思ひますが、費用はどのくらいか、補助率はいくらかあるのか、それによつて決めたいと思ひます。予算内で設置に向け前へ進めてひきます。よろしくお願ひします。

(森田教育長職務代理者)

蟹江町は他の市町村と比べて児童生徒数が数年後減るとい状況にはなつてひないと思ひます。町長が子どもは宝だと前から言われてひますとおり、教育に関して先を見てひたひたひてありがたい。蟹江町のますます増えていくであろう子どもたちのために、ご尽力よろしくお願ひします。

(町長)

総合教育会議をやることによつて、以前の教育長である工藤教育長、石垣教育長の頃から、たくさん町長部局と教育委員会との間に架けすぎるぐらい橋を架けてひます。教育委員会で起こつたことはすぐに町長部局に入るし、町長部局で起きたことについてはすぐに教育委員会へ報告をしてひます。体育館のことについても優先順位が高いと思ひますし、まちづくりミーティングでも、子どもたちから、空調設備のない体育館では部活はできないと痛烈な意見を聞いてひますので、ぜひともやりたいと思てひます。議員各位にもそういう事情をしっかりと把握してひたひたひたひて同意してひたひたひてひたいと思てひます。

(高阪教育委員)

不登校の数字からです。昔は学校に行かないとい選択肢はなかつたと思ひますが、ある程度は子どもの意志も尊重されるような時代になってきたのではないかなと思ひます。不登校が増えるといことは、自分たちの昔の頃に比べて学校の先生が柔軟な考へを持ち、子どもの気持ちを理解しようとしてく

れている結果だと感じました。決して不登校が悪いことではないと思います。中学校では不登校者が約50人ですが、予備軍はもっといると感じます。適応指導教室（あいりす）は送迎が必要であることや、子どもが不登校になったらお母さんは仕事を休まないといけないということもあり、それらをファミリーサポートが協力して、その子たちの選択肢を増やしてあげたいなと思っています。実際に相談があったら取組はしているのですが、ルールを柔軟にするなど、通いやすくなるような工夫があってもいいと思います。しかし、適応指導教室（あいりす）に絶対行きなさいとなると学校と一緒にになり、子どもの精神的プレッシャーになってしまうので、ある程度選択肢は与えていいと思います。例えば、柔軟に行き来できる場所があるとか、民間でもフリースクールを考えている話も聞いたことがあるので、民間の力も借りて居場所づくりみたいなものができるといいと思いました。ただ、事故等の責任を誰が取るかなどの難しい問題があるのは分かっていますが、何か良い方法があればぜひ検討していただきたいと思っています。

（教育長）

高阪委員のおっしゃられるとおりで、新型コロナウイルス感染症が流行する少し前から、無理やり学校に行かせるのはどうなのだ、学校へ行かなくてもいいのではないかという風潮が出てきました。それも1つの選択肢だと思います。それをどうしていくかが行政に課せられている課題かと思います。フリースクールもいろいろなものがあり、この先どうなるかわかりません。スクールソーシャルワーカーが兼務で行っていましたが、専任として動いていただきます。今までは、臨床心理士が週に1回、県から派遣されて中学校に月に1、2回行っていましたが、お越しいただいた時には、毎回、定員いっぱいまで面談をやっているという状態でした。保健センターの中にも臨床心理士の資格を持っている方がいましたので、健康推進課長さんにもお願いさせていただき、相談者の人数が多くて対応が難しい時には応援していただくようお願いをさせていただきました。それと不登校者の人数が増えているのは危惧しております。私だけの思いだけで聞いていただきたいのですが、県内の自治体の中では、呼び方はいろいろありますが、F組といわれるような、学校内で自由に通える教室があります。教室には入れないけれどそこに登校して、空き時間の先生が対応してくれます。しかしながら、余剰教室が必要となり、先生方にも負担を掛けるので理解が得られるかということが課題となります。このような取組を始めているところはあるので、校長会等で相談しながら、一つの方法として考えていきたいと思っています。適応指導教室（あいりす）以外でも、もう少し学校で何かできることがあるのではないかと考えております。

（高阪教育委員）

決してこの数字が悪いから学校で改善するよというつもりは全くありません。数字は気にしなくても良いと思います。不登校を減らすようにしようとすると、先生方も絶対負担が増えてしまうと思います。

（教育長）

数字だけで言いますと30日以上という不登校の一つの基準のラインがあるため、それ以上休んでしまうと1というカウントになってしまいます。毎月、生徒指導報告が学校からあがってきます。いじめ不登校の対策委員会というのを学校の先生方と我々がやっています。自分がデータを見ながら思うのが、31日でも不登校になってしまうのですが、多い子は170日ぐらい休んでいます。危険区域は90日以上とれているので、5、60日休んだ子たちでも、1か月に週に2、3回は頑張って学校に来ている子もいます。数字の裏にある状況も詳しく知りたいというのであれば、またお聞きになって下さい。

(高阪教育委員)

無理に学校に来て自殺とかは絶対にダメだと思います。それよりも不登校が選択肢の一つとしてあるのは悪いことではないと思います。

(町長)

蟹江町の人口が10年先どうなるのか。第5次蟹江町総合計画で示されているため、皆さんご存じだと思いますが、人口目標3万8千人の内訳がどうなっているかが重要です。外国人登録の人が増えています。特に住民基本台帳に載っているベトナム人が増えてきています。永久滞在者は少ないようですが、技能実習生などで蟹江町に一時的に暮らす外国の方は増えると思っています。昼間人口、夜間人口の違いはありますが、蟹江町が数年で変わってきているという理解をいただくとありがたいと思います。そうすると、その家族も当然学校に入ってきます。現在、お願いしているプレスクールの皆さんにも、負担かかるかもしれません。さらに、JR蟹江駅北側の区画整理事業が完了したことにより、須西小学校の教室が足りない状況になってくるかも知れません。これからスタートするであろう、近鉄富吉駅の南側、この地域も多分人が増えてくる。地域の皆さんに本当にご無理をお願いしながら都市開発をやらせていただき、結果が出るのが7、8年先となりますが、その時に蟹江町いいよねとだけ言っただけの継続的な施策は続けていきたいと思っています。これからも教育委員会部局と町長部局でしっかりタッグを組んで情報収集、処理にあたっていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。